

文部科学省物品・役務等契約監視委員会（第49回）議事概要

開催日及び場所	令和2年2月13日（木） 文部科学省 会計課会議室	
出席委員 (敬称略)	○委員長 有川 博（愛国学園大学教授） ○委員 大谷 益世（公認会計士） 清水 光（弁護士） 松浦 亨（北海道大学病院客員診療教授）	
審議対象期間	令和元年7月1日～9月30日	
個別審査案件	8件	○議事 (1) 令和元年度第2四半期に締結した契約の概要 (2) 個別審査対象案件 (3) 随意契約事前確認公募実施案件に係る審査 (4) その他
一般競争入札方式	4件	
最低価格方式	2件	
最高価格方式	0件	
総合評価方式	2件	
指名競争入札方式	0件	
最低価格方式	0件	
総合評価方式	0件	
随意契約方式	4件	
企画競争	3件	
公募	0件	
競争性のない随意契約	0件	
不落随意契約	1件	
事前審査案件	0件	
委員からの意見・質問、 それに対する回答等	別紙のとおり	
委員会による意見の内容	審議の過程で検討や見直しをしていただきたいと申し上げた点については適切に対応をお願いすることとし、全体としては問題なく処理されている。	

質 問 ・ 意 見	回 答
<p>個別審査案件について（以下、審査順）</p> <p>①理数補助教材の在外教育施設（補習授業校）への 梱包発送業務 一式 【一般競争（最低価格落札方式）】 （大臣官房会計課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった理由は何と分析しているのか。 ・毎年の業務で、競争を続けるのであれば、競争環境をどうやったら維持できるのかというのをさらに進めていただきたい。機械的にアンケート用紙を配り、それが返ってこなかったという処理で済ませるのではなく、競争するための環境づくりについてももっと工夫をしていただきたい。 <p>②オープンイノベーションによる大学研究成果の 実用化に関する調査研究 【随意契約（不落・不調随意契約）】 （科学技術・学術政策研究所）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった理由は何と分析しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札説明書を取りに来た3業者のうちの1者からは海外発送は取り扱ってないという理由で入札に参加しなかったと聞いている。他2者からは応札しなかった理由のアンケートに答えていただけていない。 ・今回は再度公告からとなったが、一応この案件に限らず、公告後に過去の参加者に連絡を取って、参加の声掛けをしている。 ・（競争するための環境のためにもっと工夫をする件について） 分かりました。 <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札とはならなかったが、不落随意契約となった。1回目の応札では落札者がおらず、応札を繰り返したが、4回目に辞退を申し出があり不落となった。その後の交渉によって、予定価格の範囲内に収まったので、随意契約を行う

<ul style="list-style-type: none"> ・最終的にこちらの言い値に合わせてもらい、やっ と落ちついたという印象を受ける。価格圧力みた いなものはなかったか。予定価格の立て方はどの ように考えているか。 ・参考見積もりについての管理はどうしているか。 ずさんな管理をすると、そこから価格が漏れるの で、どう管理しているかを伺いたい。 ・ルール上、負担行為担当官と補助者以外は参考見 積もりを見ることはできないという考え方でよろ しいか。 ・技術審査職員の方々の間での加点にばらつきがあ る。そこを見ていくと、ものすごく観念的な区分 で加点が付与されていて、何を根拠に評価してい るのかというところがはっきりしない。きちんと 説明できるのか。 ・同じ項目を得意・不得意に関係なく全員が評価し なければならないのは、総合評価の制度設計上 において悩ましい部分。本来、得意でないところを 評価させるということは避けた方がいいのかもしれ ない。今回に限らず、文科省全体として、会計 課で総合評価に関する問題意識ということで、宿 題として検討していただきたい。 <p>③国立アイヌ民族博物館に設置する積層式、2層式 の書架の調達</p> <p style="text-align: center;">【随意契約（企画競争方式）】 （文化庁企画調整課）</p>	<p>こととした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予定価格については、技術審査の一番高い者の 参考見積もりを基準にして、それに市場調査を 少し加えたもので算出しているの、無理のな い予定価格であったと認識している。 ・各担当の鍵の閉まる場所で保管して、開札当 日までしっかり保管している。 ・参考見積書を持つ者が負担行為担当官の補助者 になるので、その方が適切に管理するという形 になっている。 ・はい。 ・どういった場合に加点するかということについ ては採点表にも書いてあり、それを各先生が見 ながら、その提案内容等を見比べて、段階に応 じて加点を加えているので、その評価項目、 基準についてはあらかじめ設定はしている。 ・分かりました。
---	---

<ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった理由は何と分析しているのか。 ・普通は4者とも参入してもおかしくないが1者になったということはそれなりの事情があるはず。納入期限は何日取っていたか。 ・ヒアリングでそうした回答が返ってきたら、談合や受注調整の可能性に疑いを持って、業者が辞退してきた理由についてのより詳細な事実確認を行っていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入札説明会に参加した者は4者で、そのうち書架メーカーの2者は、直接応札の意図はなく、応札者を除く残りの1者も同博物館内の別の入札に参加予定で本件については辞退をしたと、こういったヒアリング結果であった。 ・また、別の業者から、東京五輪による需要の増、資材・人材不足などの要因も一部あるということで断念せざるを得なかったということも聞いている。公告期間は53日間取り、手続上は適切に行ったつもりではあるが、結果として1者になってしまった。 ・約半年である。 ・確認をとります。
<p>④「日韓交流おまつり 2019 in Tokyo」企画運営実施業務</p> <p style="text-align: center;">【随意契約（企画競争方式）】</p> <p style="text-align: center;">（文化庁文化経済・国際課 国際文化交流室）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった理由は何と分析しているのか。 ・もし参入したいという団体があったときに、少し 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、日韓政府間の調整によって公演内容や費用負担等が決定されるもの。日韓の政府間事業なので、日韓両政府との連携あるいは、協賛企業等との連携を踏まえて、日韓の文化理解促進に資するステージ企画を提案できるのが落札者以外いなかったのではないか。 ・本来なら20日間公募するのだが、日韓両国の合

公告期間が短い気もするので、新規参加者が新しい企画を立てられる公募期間となっているかどうかなど、必要な期間を確保していただきたい。

⑤「男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業（女性の学びとキャリア形成・再就職支援を一体的に行う仕組みづくりに関するモデルを構築するための実証事業の実施）一式」

【随意契約（企画競争方式）】

（総合教育政策局男女共同参画共生
社会学習・安全課）

- ・企画提案書の締め切りから採択まで、かなり期間が長いように見受けられるが、こちらは何か事情があったか。
- ・契約の締結も遅れているがどうか。

⑥「令和元年度先導的の大学改革推進委託事業のうち『獣医学教育の改善・充実に向けた調査研究』一式」

【一般競争（総合評価落札方式）】

（高等教育局大学振興課）

意のもと、韓国側から正式な要請をもらってから実際に企画して実施するので期間が毎年非常に限られている。特に今年度は、外交的・政治的な状況もあり、要請が例年より遅れた。

- ・来年度は少なくとも20日以上は公募期間を原則に基づいて確保したいと思っている。
- ・所定の手続きを取って1者だけならば、随意契約事前確認公募も検討したい。

- ・想定していたより時間が掛かってしまった。選定委員会の実施日が思うように設定できなかった。
- ・事業計画書の内容でもう少し精査をしなければいけなかったり根拠書類が足りなかったりと若干のやりとりがあり、少し時間を要してしまった。

<ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった要因をどう分析しているか。 ・一者応札でありながら6回の入札を行った経緯を教えてください。 ・民間事業者の参入は難しいかもしれないが、総合評価なので競争参加できる形にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公告にこの案件がどういうものかの事例なども示したが、テーマ自体が獣医学教育に関するモデル・コア・カリキュラムの作成と非常に専門的であったため、他の事業者からすると、取り扱えない、金額に見合わないとして手を挙げなかったのだろうと判断している。 ・応札者が5万刻みで価格を落としてきたので、それを繰り返した結果、6回目の再入札でやっと予定価格の範囲内になったものである。 ・総合評価落札というやり方の是非について、また類似の話をするときには、企画競争なり、もう一回そこから検討したい。また、単なるホームページの開設だけではなく、その内容の詳細や求めるレベルの提示、それに対して、こういった策定作業を進めていく上で、文科省としてどれぐらい協力できるのかなどというような情報提供を密に行うような形で、民間事業者も手を挙げやすいというような作りで次回以降は対応したい。
<p>⑦「もんじゅサイトを活用した新たな試験研究炉に関する調査」</p> <p style="text-align: center;">【一般競争（総合評価落札方式）】 （研究開発局原子力課）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札となった要因をどう分析しているか。 ・受注した業者以外にどういった競争業者を想定していたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2者が説明会に参加した。うち辞退した業者にアンケート調査を行い、「研究炉の設置に関して、具体的な設計や調査等に関する業務について担当できるものがない」といった辞退理由を聴取している。 ・国内に複数社あるシンクタンクに来ていただけないかと考えていた。

・次回も競争の形を取るなら、多くの人たちに競争環境を整えないといけない。これまでの調査した結果を、新規参入できる人たちに情報開示できるようにして、次の詳細設計はほかの者も競争に参加できることを十分注意していただきたい。

⑧「スポーツ活動支援事業（総合型クラブの質的充実に向けた支援事業）」

【随意契約（企画競争方式）】
（スポーツ庁健康スポーツ課）

- ・一者応札となった要因をどう分析しているか。
- ・声掛けがうまく伝わらなかったというのは先方に要因があったのか、こちらのツールに問題があったのか。
- ・声掛けというところで、過去の関係者やこの事業を担えそうなところに個別のお声掛けする手段を取るべきで、それがなかなか取れてなかった点は今後、大いに改善していかなければならない。

随意契約事前確認公募審査案件について

（以下、審査順）

アジア太平洋地域世界遺産等文化財保護協力推進事業

文化庁文化資源活用課文化遺産国際協力室

・分かりました。

- ・説明会参加者からは人的、時間的なりソースを設けることができなかつたので辞退したと聴取している。また、過去参入した業者への声掛けがうまく伝わらなかつたという点も要因の一つである。
- ・公募の際は、ホームページの告知のほかに過去の関係者などに個別の声掛けをすることが大事な手段だと認識しているが、今回十分な声掛けが出来なかつたと反省している。
- ・関係者の方々に広く声を掛けるという手続をし、公告の期間を少し広めにとって、周知徹底を図れるような、そういう取組を今後はしていきたい。

<p>過去の審議で委員会として随意契約事前確認公募を検討してはいかがかという意見を述べた案件ということで、このまま進めていただければと思う。</p>	
--	--